

No. 4

1985

4月1日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区
発行責任者
林 直 輔
印 刷 者
飯田共同印刷(株)



〈写真説明〉昭和60年3月31日奉納の獅子曳児童 写真提供 小川節男氏

獅子舞奉納

伊 谷 唯 介

春祭になぜ獅子舞を奉納するか。獅子舞を奉納することによって、その郷は豊かになり、住んでいる人達は災難から逃れる。即ち郷内の豊作や平穩無事、また氏子の無病息災を祈願して奉納するのであると言う。

萩山神社の獅子舞はいわゆる「練り獅子」に属し、大島山瑠璃寺のものの流れを汲むものとされているが、たゞ獅子曳の宇天王が下市田では松王・梅王・桜丸と「菅原伝授手習鑑」で活躍する三ツ子の兄弟に変わっている。なぜこのように変わったかは定かでないが、地芝居や浄瑠璃が盛んであった当部落の人達の好みは獅子曳に反映したのか、などと言われている。

それは兎も角として、幼い学童達が、荒事の稚児若衆の仕度で、着馴れぬ赤地の衣装に大襷を掛け前髪立ちの鬘に大きな力紙をさし三重の草鞋を履いて、さすがに、かなり疲れた様子だが、然し神社へ到着して拝殿前へ整列した時の健気な姿を見ると、思わず目頭が熱くなる。

新年度に向けて

区長 林 直 輔

ひと雨毎に春をはこんで来、桜のつぼみもふくらんで参りましたが、農家は仕事が遅れ気味にて困惑致しておりますが、下市田区の皆さんお元気でしうか。五十九年度の事業も大方終了しました。皆様方の協力厚くお礼申し上げます。道水路改修いわゆる土木事業も、予算計上された中二ヶ所ばかり返上されましたが、あとは完成或は見込みであります。その他、懸案の諸問題の中、六地藏前の裁判も、四月には結審となり、弁護士先生の見通しでは秋頃に判決が出るのではとのことです。出砂原借地解放も、町また区と組合と田満に話し合いが付き、五月には登記も完了し、明治以来の貸借関係が公共的な一部を残し解消致します。この土地の発展にご努力された関係の皆様、改めて深甚なる敬意と感謝を致す次第でございます。

下市田第二工業団地も、地権者皆さんの深いご理解

とご協力により、二十一世紀の高森町造りに向け第一歩を踏出しました。これに伴い、下市田区がどの様に変って行くのか想像もつきかねますが、その対応について、行政は当然ですが区独自と致しましても、区民の智慧を結集し対処して行かねばと強く自覚致しております。

この計画が進んで参りますと、土地利用に関しても色々問題が出て参ると思ひます。特に中段地帯の道路等困難な問題ではないかと心配致します。

六十年代も、皆様から要望のありましたものは、全部町へ上げてあります。土木関係はほとんど採択になつておりますが、また、出来る限り要望に應える様頑張ります。予算額も内容は若干違いますが、昨年と大差ありません。円滑な区の運営が出来ます様、皆様のご協力をお願い致します。

昭和60年度下市田区一般会計予算 (単位 千円)

入		出	
区 分	予 算 額	区 分	予 算 額
1. 区 費	8,700	1. 総 務 費	7,083
2. 繰 入 金	3,839	2. 厚 生 費	723
3. 町 支 出 金	1,500	3. 区 有 地 費	1,340
4. 財 産 収 入	1,000	4. 土 木 費	2,622
5. 寄 付 金	500	5. 水 利 費	1,505
6. 繰 越 金	596	6. 消 防 費	528
7. 諸 収 入	800	7. 公 民 館 費	2,134
		8. 予 備 費	1,000
合 計	16,935	合 計	16,935

昭和60年度下市田公民館予算

入		出	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
繰 入 金	2,134	繰 出 金	2,134
計	2,134	計	2,134

目	予 算 額	節	
		区 分	金 額
1. 総 務 費	936	1. 報 酬 手 当	720
2. 教 養 部 費	492	2. 需 要 費	216
3. 体 育 部 費	499	1. 行 事 費	422
4. 視 聴 覚 部 費	109	2. 学 級 補 助	70
5. 図 書 部 費	98	1. 行 事 費	435
合 計	2,134	2. 備 品 費	50
		3. 消 耗 品 費	14
		1. 視 聴 覚 部 費	109
		1. 図 書 部 費	98

昭和60年度菰山神社予算 (単位 円)

入		出	
歳 入	歳 入	歳 出	歳 出
1. 神 饌 幣 帛 料	3,500	1. 祭 典 費	208,880
2. 財 産 収 入	10,000	2. 神 符 守 札 調 製 費	100,000
3. 社 入 金	1,621,000	3. 給 与	267,000
4. 寄 付 金		4. 社 務 費	234,110
5. 繰 越 金	67,356	5. 管 理 費	217,040
6. 雑 収 入		6. 負 担 金 寄 付 金	195,818
		7. 積 立 金	
		8. 予 備 費	29,008
		9. 保 存 会 育 成 費	450,000
経 営 部 会 計	1,701,856	経 営 部 会 計	1,701,856

15名の新代議員決定！ どうぞよろしく

就任挨拶

会長 小林 恵

昭和六十年と六十一年の二年間、区の代議員を務めさせて頂くことになりました。

十五名が協力し、一体となつて努力して参りますので、区民皆様の暖かいご理解とご協力を、心からお願ひ申し上げます。

(順不同)



会長 小林 恵



北沢 富夫



今川 芳章



副会長 小川 三吉



大沢 善計



福島 幸雄



木下 功

公民館組織に 副館長制を採用

いっそうのご理解とご協力を

公民館長
小島 正美

下市田区の全戸数は、現在一〇七〇戸という大世帯であり、高森町全戸数の約三分の一位になるわけで、郡下には下市田区より小さい村が七カ村あります。これは、下市田区の大きさを物語るもので、区の方々が話し合いの結果、今まで館長、主事の体制で、各部の組織により事業を進めてまいりましたが、区のご理解をいただき、本年度から館長、副館長、主事制

財政を受持つ理事者は、大変なご苦労と思うわけであります。

こうした中で、公民館の運営についても、同じことがいえるかと思いますが、おそらく飯田市を含めて、分館としてはやはり郡下で一番大きいものかと思えます。

昨年末、公民館役員委員の改選に当り、区の理事者の方々と話し合いの結果、

今まで館長、主事の体制で、各部の組織により事業を進めてまいりましたが、区のご理解をいただき、本年度から館長、副館長、主事制

地権者全員の同意を得て

下市田河原

第二工場団地計画きまる

高森町の将来をうらなうべく、第一工業団地に続いて、第二工業団地計画を研究してまいりましたが、下市田河原に場所が決定されました。

昨年九月に地権者組合(七十名)が設立され、町の推

進委員会と何回にもわたって協議を重ねられましたが、二月二十八日に至り、七十人全員の地権者の方々から、計画推進の第一条件になる、農振除外の同意、三測量のための用地立入の同意を

(次面上段へ)



上沼 政夫



三浦 康治



林 重利



加藤 忠彦



伊勢 寛夫



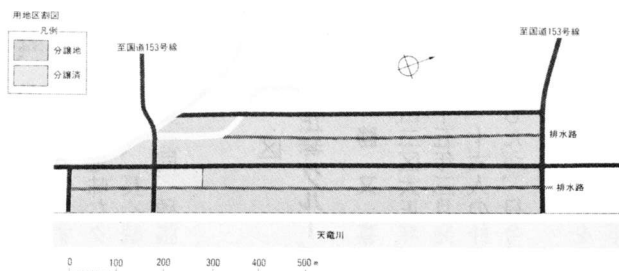
手塚 春一



村沢 文一



大島 昇



工場団地図(下市田工業用地概要より)

得ることができました。
地権者組合長さん始め、
役員の方々、地権者各位の
町の将来に対する深いご理解
とご協力に対し、感謝申し
あげるといってあります。

又、代替地のご協力を下
市田全区民の方にお願いま
したところ、現在約八町歩の
提供のご協力を得ることが
でき、進入路の地権者の方
々からも、測量の立入の同
意もいただきました。

現在は、代替地の公平な
割り振り作業を行っており、
関係者の方々の了解を得て
今後は、企業誘致に全力を
そそぎ、飯伊一の工業団地

の名にはずかしくないもの
にしてまいりたいと思いま
す。

企業誘致に当りましては
時節がら、全国の市町村が
行っており、前途多難が予
想されます。区民各位にお
かれましては、親類、知人
の方で、企業関係につなが
りのある方、企業情報につ
きまして、心当りがありま
したら、ご一報いただだけ
ますようご協力をお願いす
るものであります。

これからの計画でありま
すが、各種手続きを整え、
十二月には着工し、来年七
月頃から工場建設が始めら

れるよう進めるつもりであ
り、下市田関係者各位には
今後又何かとお世話様にな
りますますがよろしく願いま
す。

工場団地計画により重大
な影響を受けます酪農問題
その他地権者組合との協議
の中で、お約束しました事
項は、厳正に守って、この
計画を進めるつもりであり
ますが、いたらぬ所があり
ましたら、関係各位のご注
告、ご指導をたまわります
ようお願い申し上げます。

第二工業団地計画推進
委員長 上沼 芳計

クラブ紹介 (4)

唄う民謡ダサラ

春 那 会

六区 下平 高子

春那会の出来たのは、五
十九年一月からで個人指導
が目的のため、全員張切っ
て練習にはげんでいます。
指導して下さるのは、円山
流の塚平嶺子先生で、吉田
にお住いです。

最初に一人で唄うのが、
はづかしいと思いましたが、

先生の上手な指導と、ふん
いき作りで生徒一同和気あ
いあいでの時間の過ぎるのを
忘れる位になりました。私
達が民謡を習って、感じた
事は、年令の差がなく、楽
しめ、そして各地のお国こ
とばを、おぼえる事も、民
謡を習って知りました。

年に一回家元が来飯され
て発表会が行なわれ、日頃
の練習の成果を発表しあい、
家元の批評を受けるのも、
楽しみの一つです。



親睦旅行で。

また、昨年より、塚平教
室の交換会が行われ、各教
室から大勢の人達が参加し、
懇親会には、唄ったり踊っ
たりして、楽しい一日でし

第2工業団地内用地意向結果

60年2月28日現在

関係者	売却要望			代替地	賃 貸
	60年 売却	61年 売却	62年以 降売却		
人	73,309	13,293	16,400	58,356	0

合計 161,358㎡

た。
これからも、民謡を、楽
しく唄いつづけて行きたい
と思います。

一区民踊クラブ

さくら会

木 下 うた子

私達の民謡クラブは、昭
和四十九年に発足致しまし
た。その始まりと言います
のも、当時、下市田区の敬
老会に婦人会の役員になっ
た方達が、何か余興をしな
くてはならなかったのです。
それで、民踊でもしようと、



昨年11月の発表会で。

前年の役員の方に教えて頂
いて、その場は済みました。
それなら民踊クラブでも作
ってみようと言う事で、体
育指導をしていたと思いま
すが、林さんをお願いして
二十余名で始めました。
現在はクラブ員十五名で
す。先生は、福田、片山両
先生を町でお願いした時、
出席して、クラブへ帰って
月に一回位、練習会を行な
っています。

また、敬老会、運動会、
下市田区で行なう盆おどり
クラブ発表会等に、出させ
て頂いております。
年令と共に踊りも忘れが
ちですが、楽しみは、クラ
ブの皆さんに会える事と、
民踊をした後、身体が軽く
なります。また、それぞれ
結婚式や、慰労会の時など
に、役立っているのではな

でしょうか。私達のクラ
ブには、衣装、小道具など
は、あまり多くはありません
が、会費で少しずつ揃え
ています。地味なクラブで
すが、細く、長く続くよう
クラブ員一同、頑張ってお
ります。

二 区 大正琴グループ

勝 又 喜 代

下市田二区大正琴グルー
プは五十五年三月発足致し
ました。十六人の仲間での
出発でしたが、只今は七人
になりました。

最初は千賀さんを先生に
お願いし、五十七年四月か
ら、佐々木先生にお世話に
なっています。ずぶの素人
ばかりで苦勞もあり、お互
いに励まし合い、五年間続
き、今では皆さん練習日の
来るのが楽しみの一にな
りました。月一回の練習で
すので一曲仕上るのは時間
がかかり、レパートリーも
少なく、演技もまだまと
という状態ですが、先生の熱
心な指導のもと精一ぱい頑
張って居ります。
去る三月十六日に佐々木
先生、小島先生の教室第三
(次面上段へ)



大正琴グループ

回発表会があり、私達グループも初参加することが出来ました。所が七人の中二人が都合悪く五人になってしまいました。

当日は喬木、豊丘、松川から参加があり、十グループ百余名の参加者でした。五名というのは私達だけでしたが勇気を出してやりました。初出演ではあり、出て見ると、色々思わくが違い、決して演技は上手には出来ませんでした。

しかし出た事によってプラス面の大きかった事に気付きました。今迄に知る事の出来なかった他グループの様子を知る事が出来、私達ももっと勉強しようという意欲が湧いて来たように思います。他グループの努力の結晶を吾が眼で見、耳

萩山神社 ものがたり(4)

— 鳥居について —

伊谷唯介



上社の石の鳥居

見学のしおり」には現存の鳥居を次の種類に分類している。

①神明鳥居——これが二つに分かれる

④(仁徳天皇陵) 全部素木の円柱・最も原始的

⑤(伊勢神宮・熱田神宮・明治神宮) 柱は円柱・笠木は五角、貫は角

②鹿島鳥居(鹿島・鹿取神宮)

神明と同型、貫が柱の外へ突き出る。

③春日鳥居(春日神社)

島木・額束あり、角形

④八幡鳥居(石清八幡)

春日鳥居と同型

⑤明神鳥居(特定の神社なし)

各地の神社の多くはこれ、礎石あり。

⑥稲荷鳥居(京都稲荷神社)

社)

明神と同型で柱の上に台輪あり

以上③④⑤⑥は多少の違いあれど同型

⑦その他

両部・山王・三輪・住吉などの形式あれど略

さて、萩山神社には上社に二基、下社に一基と計三基の鳥居があり、よく見ると三基ともそれぞれ材質や形式が異っている。

形式が異っている。

上社

石の鳥居(参道の入口)

前記の分類では⑥稲荷鳥居に属し、明神鳥居と同型であり、柱の上部には台輪のあるのが見える。

宝永六年(約二八〇年前)建立、施主、下市田郷中

鋼管の鳥居(境内の上り口)

形式は②鹿島鳥居に属しているが、額束や社名額があるのが珍らしい。もとは橋都多賀司氏寄進の木造の鳥居であったが、老朽甚だしく、昭和四十四年に笑和会によって鋼管製銀色塗りに建て換えられた。

笑和会——羽生保吉・福島庄司・中村清・池田今治郎・中村政雄・熊谷章・野上貞司・片桐

謙一・大石芳男

下社

石の鳥居(参道の入口)

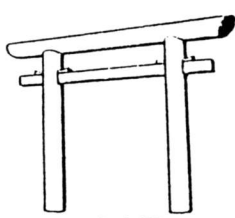
形式は⑤明神鳥居で、極く一般的な形式である。

昭和二年建立、寄進者は下市田大師講であり、その名簿は下社境内の碑にある。



明神鳥居

下社の石の鳥居



鹿島鳥居

上社の鋼管の鳥居



稲荷鳥居

上社の石の鳥居

下市田出身町議と語る会 盛況裡に実施さる



下市田区、下市田公民館主催の「地元出身町議と語る会」は去る二月二十五日午後三時から下市田公民館において開催され六十余名の区民が参加して盛況をきわめた。

語る会には、区出身議員七人全員、下市田区三役が出席し、上沼町議、林区長からそれぞれ町、区的一般情勢報告が行われたあと、一般質問、地元要望が出され、質疑が行われた。

主なる質疑意見は次のとおり。

一、町の公債の現状と将来対策について。

二、高令化社会を迎えるに当って老人対策はどうか。

三、南信給食センター移転

による雑排水処理は町ではどう指導しているか。

四、家庭雑排水処理対策の現状および補助率の引上げの必要性について。

五、町内河川の汚染調査を行って常に公表をする必要があるのではないか。

六、小河川、用水路で補修改良の必要力所、(一)相の沢の上流、パチンコ店の北、(二)南信給食センター北の用水路、(三)下市田保育園から上の通学道路の側溝の対策等はどうなっているか。

七、高森町のモーター対策はどうなっているか。

八、黒沢川下流は天井川であり、きれつが入り石積もそってきいているので早

史跡めぐりシリーズ(4)

日限地藏について

山本 脩平

「日をきってお願いする」と、必ず、その日までになてくれる」というところから、日限(ひぎり)地藏となった。

以前は、「日切」と書いた。ところが、今から十数年前、松源寺から「日限地藏尊」と書いたおふだの版木ができて、以来「日限」となった。

なぜ、松源寺にこのような版木が所蔵されていたのか、は定かでないが、いづれにしても、日限地藏と松源寺の間に、なんらかの関係があったものと思える。境内にある縁起書によると、由来は、次のようである。

今から一三〇年前、南大急に改修されるよう建設省へ申込みをされた。九、出砂原の区画整理事業はどうなっているか。

十、国、県の補助金がとれるよう各町議は常に努力をされた。

(公民館 教養部)

島川添いに一人の貧しい男が住んでいた。この人は根っからの正直で働き者であったため、頼まれて農家の手伝いをしたり、日雇い人足にでたりして、とても重宝がられていた。

ところが、ある年の秋、重い病気にかかって、遂に寝込んでしまった。近所の人たちが可愛そうに思って手厚い看護をしてやったが、そのかきもなく亡くなってしまった。

亡くなりきわに「このご恩は、決して忘れません。死んだらお地藏様に祭ってください。必ず、ご恩返しをいたします」と言いのかして、息を引き取った。

村の人たちは、遺言どおり、約五〇センチメートル

の野面石の表にお地藏さんのお姿を、裏面に嘉永二年西二月十五日と刻んで、ねんごろに祭ってやった。が、その後は、長い間、草むらの中に放っておかれた。

ところが、ある年、この村に重病人ができて、八方手を尽くしたがおもわしくない。祈禱師まで頼んでおはらいをしてもらったけれども、よくならない。

すると、ある晩のこと、夢枕にお地藏さんがたつた。それで、家の者がそのお地藏さんを探すと、草むらの中に埋もれていた。さっそく、お堂を建てて手厚く供養し、三、七、二一日の間

に、この病人をよくしてほしい、と願をかけた。

七日目には、不思議や不思議、ふとんの上に起きられるようになり、十四日目には歩けるようになり、満願の二一日目には、お地藏様へ歩いてお礼参りができるようにになった。

このことが近郷近在に知れわたると、大評判になって、それ以来、今日に至るまで、線香の煙のたえた日は、一日もない。

以来、春は四月一四日、秋は十月十四日の年二回、地元の人たちによるお祭りが盛大に行なわれている。

明治・大正・昭和の初期ころまで、毎月の縁日には、境内は、多くの参拝客でごったがえしたという。娯楽の少なかつた当時の青年はこの縁日を利用してあい引きをしたらしい。

古老の述懐では、山吹の大正館の女工さんを、送り迎えしていて、夜が明けたこともあったとか。病人を救うばかりでなく、溢れる青年男女のエネルギーの善導と縁結びのイキな計らいも、はたしたようである。

国道の通過前は、旧道か(次面上段へ)



日限地藏のお祭り

ら三、四〇メートルの参道があり、そこに社とあずまやがあった。久保田実さんの旧宅で線香を買い、煙をたなびかせてお参りをしたものである。

私たちの子供のころには、参道の入り口に「竹さ」という老人が住んでいた。これが、近所の子供たちの「遊び」の本拠でもあり、あずま屋が児童館と雨天小体育館の役目を果たしていた。竹さの屋根に登って叱られたことも、再三、再四ではなかった。

国道一五三号線が通るについて、その道路敷になったため、現在地へ移転した。竹沢正穂邸跡である。その折、小林七男さんが、あずま屋を寄付してくれた。

昔は、五区の人たちだけで管理をしていたが、数年前から四区の人たちにも入ってもらった。春秋のお祭りには、松源寺住職ご夫妻と四区、五区のご詠歌の皆さんに参列してもらい、賑やかなお祭りをしている。あずま屋に掲げてある額には、安養寺梅谷和尚の作った和讃が、次のように書いてある。

日限地藏和讃
一つには、人もよく知る下

随 想

伊那谷の四季を歩く

六区 原田 貞子

昨年町で行われた、さわやか健康教室に参加させて頂いてから、雨や雪の日以外は毎朝三十分つづ下市田の川べりを歩き始めて八ヶ月になろうとしています。

日頃家の中ばかりにいて仕事をしていますので下市田の四季のうつり変りがこんなにすばらしいとは気がつかないでいたような気がします。夏は汗ばんだホ、に川風がこ、ち良く、南アルプスと中央アルプスが雄

大につらなり、名物市田柿が赤く色づく頃には山々も紅葉にそまり、今は真白に雪をかぶってきれいにかがやいています。黄金の波をうっていた下市田の田園地帯も今は静かにねむっていますが、やがて青田にうつり変わって行くでしょう。一月の寒い朝には木も草もまっ白に霧水がついてそれは美しくて朝日にキラキラと輝やいていました。霧が深くて五メートル位先も見えない朝もありました。カモがすぐ足もとから飛び立ったり、トンビの親子が仲良くまっ

アカシヤの花が良い香りをただよわせ、桜の花も咲くでしょう。ビルの谷間の都会ではとても味わえないこのすばらしい自然の中で暮せる幸せをかみしめて、今日も又歩いています。

最近の

テレビを見て

三区 小川 裕道

戦後四十年を経た日本。いくつものヒズミを残しながらも、めざましい経済発展を遂げた今日、大きな傷あとも忘れ去ろうとしています。

しかし、あの中国残留孤児の肉親さがしを見ると、戦争の「みじめさ」「むごさ」が痛い程よみがえってきます。年がたつにつれて確認される数も少なくなっています。

あの肩巾の広い「ガッチリ」とした体、嬉しいにつけ悲しいにつけ涙を拭う節くれだった大きな手などから、四十年の苦勞がしのばれます。

寸刻も早く名乗り出てやってほしいと祈らずにはいられませんでした。

それにしても、私はその裏側の育ての親の愛情と苦勞を思う時、ただ有難さと

素晴らしい人達だと感服せずにはいられません。自国へ攻め込まれ、昨日まで殺し合った敵の子供、しかも相手は敗けたのです。日本への帰国、いや逃げ帰るに際して、勝者に乳呑子を預けなければならぬ目茶苦茶な事情、これ又、想像を絶するものがあつたと思います。

こんな事を思い巡らすと、鋏を執って働く人達にしてみれば、早く戦争が終って欲しいと考えたに違いありません。人間って、本物にふれ、それを出し合って事に臨めば、実に美しい事が出来るものだと考えさせられました。

しかし、このような光景を見る中で、「中国では手間不足だったので労働のたしに育てたのだ」という話を耳にする事があります。悲しい事ながら、そんな風に考えるのが日本人なのではないだろうか？ 若しそうだとしても、二十年、三十年の先を見て、ジックリ育てて行くところ、中国人の大きさ、広さがあるのではと感じます。もし日本人がこの様な立場に立って出来る事だろうか？ 私だったらどうだろうか？

素晴しい思いが致します。若い頃読んだパールバックの「大地」をなつかしく思い浮べ、中国の「しきたり」と「人間主義大らかさとねばり」を、この一幕に見る思いが致します。

恥しい思いが致します。若い頃読んだパールバックの「大地」をなつかしく思い浮べ、中国の「しきたり」と「人間主義大らかさとねばり」を、この一幕に見る思いが致します。

当上下市田区からも、満州移民の方達がいました。幸い残留者はなかったと聞きますが、帰国して、殆んどの方が茨城県へ再入植され頑張っておられます。私達が農協青年部の頃、茨城県玉川農協へ研修に行った事がありますが、当時の区長、池田朋一さんから、是非立寄って入植者を慰問する様にと話があつて、市田柿の苗をたずさえて訪問した事があります。水戸街道の沿線で、平坦であり立派な経営をされていました。

故郷からの使者は大いに歓迎された事を思い出します。今では東京が近いだけに、工業団地、住宅化が進んで当時とは一変した姿になっています。

近く開かれる筑波の科学万博会場の道筋です。機会を得て立ち寄れたらと思います。新に又交流を考えたらどうでしょうか。お互に新しい文化、経済面で、参考になる処が多かろうと思

います。

涙ながらに帰途につく多くの孤児のみなさん、中国にはきつと、慈愛に満ちた親や兄弟が待っていてくれるに違いありません。

何の手もさしのべられず、最近のテレビを見て、ただ感動するままに書きました。

読書好きな子に

二区 松村 敏子

「日本人の読書時間は、先進国の中でも一番低い。」

という事をテレビで放送していたのを聞いた事がありました。一瞬、意外な感じがして何故だろうと考えてみました。現代は、テレビ等で情報が簡単に得易く週刊誌等も大変多くなり、いつも受身の状態でいるからなのでしょう。

読書に親しむ習慣は、子供が小さい頃から、親が、また周囲の者が、話を聞かせたり、本を読んでやる事が大切だといわれています。学校の先生も、本を読んでいる子なら、何も心配することはないと、言われたのを思い出します。私も本は大好きです。子供達にも、寝る前に本を読みますが、(毎日とはいきません)そ

のうれしそうな、イキイキとした顔。一日の中で唯一の、親子のふれあいの時間です。そして、おじいちゃん、おばあちゃんが、機会あるごとに読んで聞かせてくれます。大変ありがたく感謝しております。

小さい時から文字に親しみ、読書のよろこびを知りその習慣が身についたならその人の人生において、かけがえない財産になるのではないかと思います。さあ、今夜も頑張って、読んであげよう。

作文

剣道大会

六年 宮外 正樹

三月三日に神奈川県で剣道大会があった。スポーツ少年団剣道部に入ってから三年間、今までは飯伊地区の大会しか出なかったけれど今度は大きな大会だった。剣道を始めて三年間はすごく大変だった。一年目はまだらくだった。二年目になって、練習もきびしくなった。冬は足が冷たい、しもやけもできた。三年目はもっと練習が大変になった。今年でも頑張った。今年

になって神奈川県へ行く話をして聞いて楽しみにしていた。三月二日の午後町のバスで神奈川県愛甲郡愛川町という所に行った。三日午前十時大会が始まった。ぼくは副将だった。Dブロックの第二試合南剣友会米山道場とやった。相手は大きい中学一年生だ。試合が始まった。それとともにメンを一本とられた。二本目が始まってすぐまた打ってきた。

うまくよれた。でもやったあとと思ったとたんまた打たれた。ぼくの負けだくやしかった。第六試合中津第二小少年剣友会とやった。また相手は大きい中学三年生だ。試合をやるまえからもう無理だと思った。でもやった。試合が始まった。ぼくが先に打った。まったくきめがない、相手が打ってきた。メンがきまった。ぼくの面がはずれそうになった。二本目が始まった。一本とられて、くやしかった。たのおもいきりやっただ。ぜんぜんきまらない。また打たれた。きまってしまった。体がふっとびそうになった。ぼくの負けだ、残念だった。でもいい経験になった。

もつすぐ六年生

五年 塩沢裕美子

六年生という、まず小学校の一番の年上というところを感じます。ただ年上でいいのでしょうか。やはり学校の先に立ってすすんでやらなくちゃと思います。でも、こう口先だけで言うだけでなく、まず自分から見なければいけません。第一、私は時間の使い方が下手で、いつも親から注意をうけています。とちゅうで他のことに気をとられ、物事に集中できません。それにすきなことから先にやってしまうので、ほとんどが夕飯ぎりぎりに終わります。こんなことでは、先になってやるどころではありません。それから、私はこまかい気がばりができないことです。階段にせんたく物が置いてあっても、持ってきてきません。いえ、それに気がつかないのです。一つに気をとられると、他のことがいがかげんになってしまふのです。

この二つは、これから先どんな場合でもかわることです。少しずつでも直していき、少しでもしっかり

した六年生になりたいです。

部活 (テニス)

中二 吉沢美由紀

中学校生活の中で勉強と共に力を入れてきたことはなんといっても部活です。一年の始めの頃は半信半疑で、どんな事をするのか？自分にやっていたける自信があるか？ など考えもせず入部をした。でも実際一年生の活動といったら、腹筋・腕立て・ランニング・サーキット・ボール拾い。体力作りが中心でした。体力作りで先輩にしごかれ終った時には体の力が抜け、翌日は筋肉痛といった毎日を、夢中で過してきました。

.....

始めて試合に出してもらったのは、二年の春のABC戦でした。結果はみごと一回戦目にストレート負けでした。

そして秋のABC戦、屈辱戦に挑みました。(中略)

この試合で一番心に残っている事は、ベスト5を決める時、ジュースジュースの連続の後、たった二点差で勝利をのしたことです。ペアーの二人でワンワン泣いたことです。

でもこれから引退までの

四ヶ月間、くいの残らないように練習をして、後輩へ引継ぎをしっかりしておきたいと思います。

今は、本当にテニスをやった良かったと思っています。

編集委員紹介

どうぞよろしく

編集委員紹介
どうぞよろしく
委員長 林 直輔
副委員長 木村 政男
区長 小島 正美
区計 小島 正美
下田公民館長 小林 勤
委員 三島 次郎
唐沢 純文
福島 正夫
寺沢 久義
松島 かのえ
松島 シズ
北林 倫子
北林 洋子

編集後記

六十年を迎えて、第一回の区報第四号を発行するに当り、原稿の投稿をお願いしましたところ、沢山ご提出いただき、立派な区報が出来ました。御礼申し上げます。なお折角投稿いただきましたが、今回掲載されなかったものについては、次回へ送らせていただきますので悪しからずご了承ください。本年も三回位発行を予定しておりますので、どうかご協力をお願いします。